

民主化闘争情報

No. 1030
2020年9月3日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

雑誌「選択（2020年9月号）」が「公安当局も注視する『不安要因』に JR東日本で過激『新労組』が増殖」というタイトルで、2月にJR東労組から分裂して結成された新労組（JR東日本輸送サービス労働組合〔略称JTSEU-E〕）を含めたJR東日本内部における現在の動向を報じた。記事によれば、「分裂した新労組とJR東労組の関係は悪い。当初から新労組側は引き抜き仕事を仕掛けた。引き抜きの対象になって、これに応じなかった社員に対する『無視、いじめ』といった事案がみられ、いまだに各職場でしこりが残っている。職場の掲示板に貼られた新労組側の掲示物に対してJR東労組側が抗議して撤去させる光景もある。また、JR東労組は、脱退した新労組幹部が過去に組合資金を不正使用していたなどとして、総額1億1千万円を超える金銭の返還を求める六件の民事訴訟を起こしている」由。今般のコロナ禍により、JR東日本も他のJRと同様極めて厳しい経営局面を迎えている最中、こともあろうか労組同士の対立が先鋭化し、職場にその余波が及び、所属組合の違う社員同士のいがみ合いにまで発展しているというのだ。

対立・批判に明け暮れる始末

～厳しい経営状況の最中、労組対立が職場を混乱に！～

職場における対立は、他にも起きているようだ。JTSEU-Eのホームページによれば、勝田車両センター分会が、JR東日本水戸支社の同職場における安全衛生委員会が形骸化しているのは選出された労働者代表に責任があるとして、「みなさん、これが労働者代表の質だ！できないと言うのなら代表の任を辞するべき！」「議論しない・できない・やる気がないのであれば、労働者代表の任を辞するべきです」と、職場で選出された同僚を徹底的に批判している。労働者代表を巡っては、前出雑誌「選択（2020年9月号）」の中でも、複数職場で選出に際し「新労組とJR東労組だけでなく、社友会も加えた複数の組織が対立する構図」であることが紹介されている。

意にそぐわない職場の労働者代表を吊るし上げか?!

確かに労働組合は職場に存する様々な課題の解決に向け自主自立的に活動する組織であり、事業場での過半数代表を目指して日夜組織の研鑽に努めることは当然の所作である。しかし、目下JR産業全体が未曾有の事態に直面し、大きな社会変化のうねりに労使挙げた対応が求められる時期であり、職場においてもかような時こそ一体感を高めておくべきだ。にも関わらず、上述の通り対立構図を職場に持ち込み、むしろ混乱に陥れるような動きを我々は到底理解できない。

この難局を乗り越えられなければJR産業は衰退の一途を辿る。決してそうなるはずはないのであって、JR産業に集う全ての仲間の明るい将来を切り拓くためにも、労使で胸襟を開き、将来をしっかりと見据えて課題認識を共有し、一丸となって立ち向かっていかなければならない。そのためには、職場の意見を丁寧に拾い集められる労働組合との健全で建設的な労使関係が必須である。前述のような職場の混乱もこうした民主的な労働組合に結集できていないことがそもそもの原因であり、「社友会」や職制を背景に選出された労働者代表では十分成し得ない。

だからこそ、JR東日本会社の真のパートナーとして、本音で向き合い将来展望を正しく共有できる、まともな価値観を有した労働組合への結集と、健全かつ強固な労使関係の構築が必要不可欠なのである。

**労働組合が不安を抱えた働く仲間の想いを集約し、
将来を見据え労使が胸襟を開いて対応することが不可欠だ！**